

NEWS RELEASE

報道関係各位

2014年10月20日

株式会社角川アスキー総合研究所
株式会社朝日新聞社
株式会社東洋経済新報社

～IT化とグローバル化の中で、知財というシステムが向かうべき未来とは～ **角川アスキー総研×朝日新聞×東洋経済による** **「IP2.0シンポジウム」を11月27日開催**

株式会社角川アスキー総合研究所(本社:東京都文京区、代表取締役社長:角川 歴彦、以下角川アスキー総合研究所)、株式会社朝日新聞社(本社:東京都中央区、代表取締役社長 木村 伊量、以下朝日新聞)、株式会社東洋経済新報社(本社:東京都中央区、代表取締役社長 山縣 裕一郎、以下東洋経済新報社)は、知財と未来をテーマにした「IP2.0 シンポジウム～未来の”モノ”・”コト”を創出する新パラダイムへの提言～」を2014年11月27日(木)、東京・秋葉原のUDX GALLERYにて開催致します。

ITの進化によって様々なシステムが劇的な変化を遂げ、グローバル化が進み、企業活動や社会のあり方が大きく変わってきました。知的財産を巡る環境も同様で、変化のスピードが速まるのみならず、異次元の世界に突入する質的变化を遂げつつあります。もはや、知財に関わる戦略は企業そのものの戦略に大きく関わってくる時代です。そして、この潮流は社会全体をも巻き込む流れであり、私たちが今後どのような問題に直面するのか、それに対応するために今なにをなすべきなのか、という議論には、知財や特許の専門家以外の人々も積極的に参加していくことが重要ではないでしょうか。IP2.0 シンポジウムでは、MIT メディアラボ所長の伊藤穰一氏、サンリオ、Google、KADOKAWA・DWANGOなどを登壇者に迎え、「グローバル時代の特許・著作権戦略」「知とテクノロジーのエコシステム」などのテーマについて議論しながら、今後知財をドライブするものは何かを追求していきます。

【開催概要】

名称:IP2.0シンポジウム～未来の”モノ”・”コト”を創出する新パラダイムへの提言～

会期:2014年11月27日(木) 13:30～18:00 (12:45開場)

会場:秋葉原UDX GALLERY

対象:経営者、経営企画部門・知的財産・商品開発、R&D、マーケティング部門の責任者、担当者他やコンテンツ産業に関わるビジネスパーソンの方々

定員:300名(先着順)

参加費:10,000円(税込/事前登録制)

主催:角川アスキー総合研究所

共催:朝日新聞、東洋経済新報社

協賛:株式会社IP Bridge

後援:一般社団法人日本知的財産協会

URL:<http://www.lab-kadokawa.com/ip2-0symp>(こちらから申込ページにリンクします)

■主なプログラム(予定)

オープニングトーク	
13:30-13:40	IP2.0 公開研究会 これまでの経緯報告
基調講演	
13:40-14:10	伊藤穰一 氏 (MIT メディアラボ所長)
分科セッション	
14:30-16:00	【企業セッション】 グローバル時代の特許・著作権戦略
	【社会セッション】 知とテクノロジーのエコはこう変わる
	■登壇者 野口祐子氏 (Head of Legal-Japan/Google Japan) 鳩山玲人氏 (株式会社サンリオ 常務取締役) 吉井重治氏 (株式会社 IP Bridge) 久慈直登氏 (日本知的財産協会専務理事)
	■登壇者 西山浩平氏 (株式会社 CUUSOO SYSTEM) 中村伊知哉氏 (慶應義塾大学大学院・教授) ほか
全体パネルディスカッション	
16:15-18:00	国家と企業そしてルール ~今後知財をドライブするものは何か~ パネリスト： 川上量生氏 (KADOKAWA・DWANGO 会長) / 荒井寿光氏 (知財評論家) / 田中一雄氏 (日本インダストリアルデザイナー協会 理事長) / 藤井太洋氏 (作家) / 進行役：国領二郎氏 (慶應義塾大学総合政策学部・教授) クロージングトーク 角川歴彦 (株式会社 KADOKAWA 取締役会長) ほか

【本件に関するお問い合わせ】

角川アスキー総合研究所 担当:有馬、戸田

TEL:03-5840-7800、FAX:03-5840-7812 Mail:seminar@lab-kadokawa.com)